リレー随筆

ゾウガメを飼っています。

宮良眼科医院
宮良　長治

アルダブラ・ゾウガメをご存じだろうか。世界で現存するゾウガメはダーウィンの進化論で有名なガラパゴス・ゾウガメとアルダブラ・ゾウガメの二種だけだ。ガラパゴス・ゾウガメは国際的保護動物で一般には飼育できないが（上野動物園や伊豆アンディランドなどにはいる）、アルダブラ・ゾウガメは本来の生息地であるセーシェル諸島などから少数が日本にも輸入されており、人工繁殖個体もいて、その気になれば入手可能である。私は家の庭で、このアルダブラ・ゾウガメのメスを二年余り前から飼育している。現在12歳ほどであるが、名前はミミ、甲長（甲羅を真上から見たときの直線距離）約60㎝、体重は40㎏近くある。この二年間で十数センチ、十数キロ成長し、二回りくらい大きくなった。このカメは、私がネット・オークションで見つけて一目惚れした。私は子供の頃からイヌ、ネコはもちろん小鳥、爬虫類、両生類、魚類にいたるまでいろいろなものを飼ってきた。憧れのゾウガメが飼育可能なカメであると知り、早速オークションに入札して運よく競り落とすことができた。かなり高価だったが、参考までに10㎝くらいの子ガメで30万円位する。出品者が手渡しを希望し、土曜日の午後と、日曜日を利用して大阪まで受け取りに行った。熱帯産のカメなので、12月の寒さの中の輸送には気をつかったが、幸いにも元オーナーが、大きなプラスチック製のボックスにキャリアやカイロまで付けてくれ、安心して飛行機を二回乗り換えて無事に運ぶことができた。空港でボックスの蓋をあける度に人だかりができたがこれは仕方あるまい。我が家には裏に無農薬栽培の野菜畑があり、隣接して10メートル四方くらいの空き地があり、そこで飼育している。そこがよほど気に入ったのか、大した柵や囲いもないが、畑に入ったり、遠出することは全く無い。小さな道具小屋があり、そこがミミの家である。連れてきた最初の日にすぐに小屋へ入り、予想していた場所をねぐらに定め、それ以来その場所以外で寝たことはただの一日もないので、帰巣本能はかなりあるらしい。そこに冬の保温用の赤外線ライト二個と太陽光と類似の光を出すメタルハライド・ライトを設置し、必要に応じて使用している。本土では冬の保温は非常に大変らしいが、さすがに沖縄ではそれ程気をつかわなくていい。冬は隙間を布で覆ったり、シートを掛けたりして保温するが、気温15度くらいでも平気で外に出たりするので、意外に寒さには強いようだ。体が大きいほど体積に対する表面積の割合が小さくなる（つまり寒さに強い）というベルグマンの法則のおかげだろうか。日光浴はカメの甲羅の成長や体温上昇のために必要不可欠であるが、夏の直射日光はさすがに避ける。その代りに水浴びは大好きで、暑い時期は毎日水浴びをさせてやるが、とても気持ち良さそうである。そのうちにいつでも入れる小さな池を作ってやろうと思っている。エサはさすがにかなりの量が必要である。いろいろな文献、雑誌、ネットで調べ最も良いと思われるものを与えている。メインはクワの葉であるが、野菜よりも大量のカルシウムを含み、甲羅の維持、成長に多量のカルシウムを必要とするリクガメには最適と思われ、非常に好きでよく食べてくれる。幸いにもクワの葉はこちらでは年間を通じていつでも容易に手に入るし、少し手間はかかるがなにしろタダである。本土の飼育者はコマツナ、モロヘイヤ、チ

一日これくらいを食べる。

ンゲンサイなどの葉野菜を中心に与えているらしいが、おそらくかなりの出費であろう。（しかし、私もスーパーのおつとめ品コーナーの常連ではある。少し傷んで5本で100円などという、好物のバナナを見つけると思わずほくそ笑んでしまう。）一日に大人の手のひら大のクワの葉を150～200枚は食べる。それに加えてリンゴ、バナナ、ミカンなどの果物と野菜クズ、ニンジン、カボチャ、サツマイモのスライスなどを一日一回与えるがほとんど完食する。その他牧草も食べるし素手では触れないアザミや、ゴーヤ、ヘチマ、イモ、カボチャの葉、ハイビスカスの花、ものすごく臭いノニ（ヤエヤマアオキ）の実や、小屋の周囲に落ちているフクギの実なども種ごと喜んで食する。要するに植物性のものはあまり選り好みしない。しかし、甘い果物が一番好きで他のものと混じっていても選び出して真っ先に食べてしまうが、これは高カロリーのものを先ず摂取しようとする本能的なものであろう。好きなものをとっておいて後でゆっくり食べようなどというセコい考えは一切ない。あれだけの甲羅を成長させるためには大量のカルシウムが必要で、牡蠣殻の粉末や自家製のサンゴの粉末などをかなりの量与えている。エサを手で与えるときには噛まれないように注意が必要である。カメなので歯はないが、鋭い嘴とものすごい顎の力で、誤って噛みつかれると出血する。最近捨てガメとして話題になるワニガメやカミツキガメなどのように凶暴ではなく、非常に穏やかで臆病な平和主義者なのだが。（これだけ食べれば当然出すものも大量だが、隣の畑の良質の肥料として利用している。）飼い主の顔をちゃんと覚えていて、人見知りもするので可愛いものである。とはいえ、やはり爬虫類でありイヌ、ネコのようには付き合えない。しかし、散歩の必要はないし、寂しがったり鳴くこともない。やや距離のある関係ではあるが、見ているだけで楽しい、いわゆる『癒し系』である。ゾウガメは巨大になり（オスの世界記録は400㎏以上!!名護市のネオ・パークにも200㎏超と思われる子供が乗れるオスがいる。）しかも大変に長寿である。この前死んだ世界最高齢とされるゾウガメは何と177歳で、かのダーウィンがガラパゴスから持ち帰ったものというから驚く他はない。これでは私も孫に遺言する必要があるかもしれない。若かりし頃から老後までをともに過ごせるペットなどめったにいない。今は日々の成長が楽しみである。甲長1m、体重100㎏が当面の目標である。さて、今日もまたクワの葉を取りに行ってこようか。

小学２年生の息子と

★リレー状況

－平成17年以前掲載省略－

31. 友利正行先生（ともり内科循環器科）
Vol. 42 No.2
32. 具志一男先生（ぐしこどもクリニック）
Vol. 42 No.4
33. 神谷鏡子先生（かみや母と子のクリニック）
Vol. 42 No.6
34. 呉屋良信先生（わんぱくクリニック）
Vol. 42 No.9
35. 江洲浩明先生（はえばる耳鼻咽喉科）
Vol. 42 No.11
36. 真栄城徳秀先生（真栄城耳鼻咽喉科）
Vol. 43 No.2
37. 野原昌亮先生（野原整形外科）　Vol. 43 No.4
38. 平良章先生（にしはら耳鼻咽喉科）
Vol. 43 No.5
39. 仲程一博先生（南西耳鼻咽喉医院）
Vol. 43 No.7
40. 松尾周一先生（まつをレディースクリニック）
Vol. 43 No.10
41. 藤井弘人先生（ひふ科 藤井医院）
Vol. 43 No.11